

さがえ区社協だより

No.21

発行：社会福祉法人 横浜市栄区社会福祉協議会

〒247-0005 横浜市栄区桂町279-29（栄区福祉保健活動拠点内）

電話 045 (894) 8521

Fax 045 (892) 8974

平成17年1月27日発行

E-MAIL : office@sakaeku-shakyo.jp URL : http://www.sakaeku-shakyo.jp

承認：栄区連第54号

ご存じですか

「地域支えあい連絡会」

～顔の見える関係づくりをとおして、地域の福祉課題に取り組んでいます～

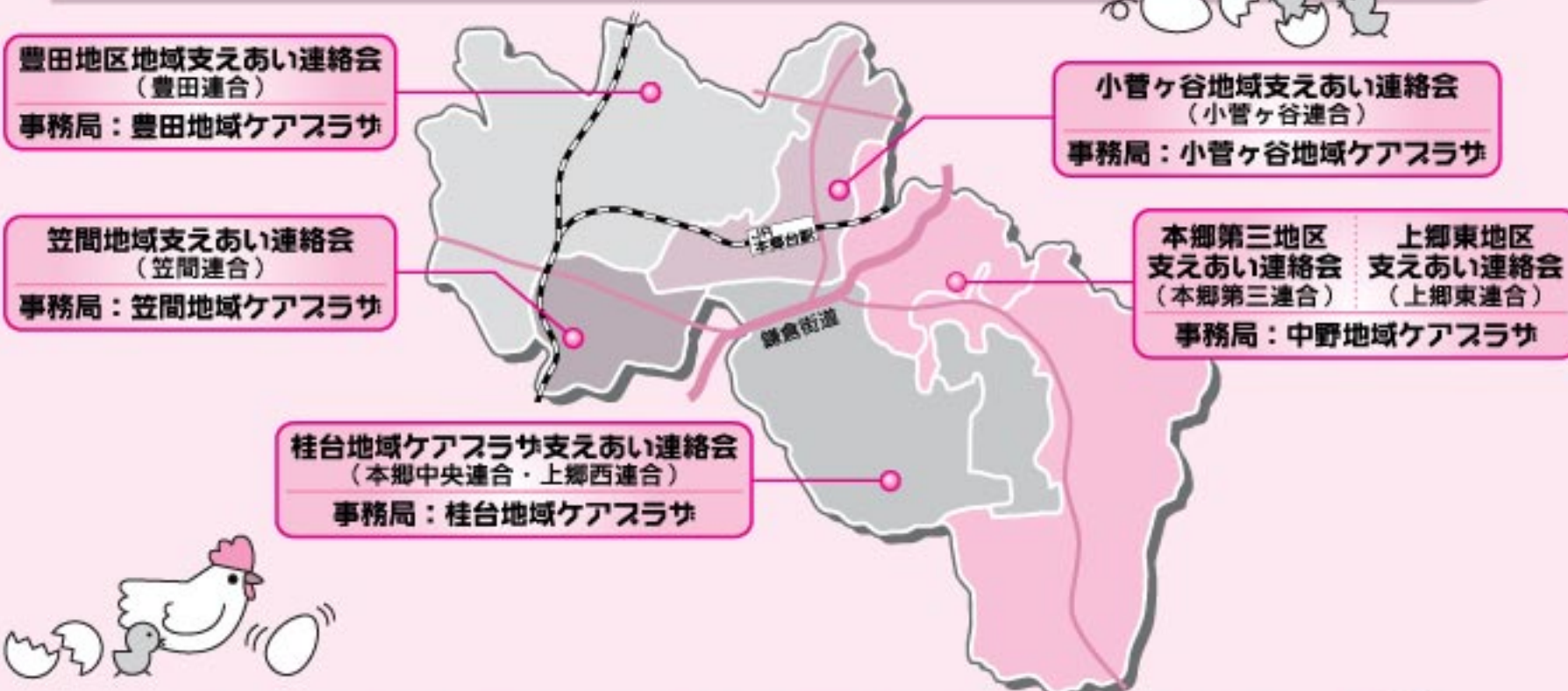
「地域福祉の目標」は、高齢者・障害者・子どもなどの様々な福祉課題を、住民同士の支えあいによって、解決していこうとするものです。このような目的を達成するための大きな役割を果たすひとつとして、栄区では平成12年より「地域支えあい連絡会」が次々にスタートしました。

現在まで6つ設置され、各地域の地域ケアプラザが事務局を担っています。構成メンバーは、地域福祉団体や区社協と行政です。

「地域支えあい連絡会」では、メンバーの皆さんが熱心な話し合いを積み重ね、それぞれの地域ごとに特色のある活動をしています。

「顔の見える関係づくり」の中で、様々な地域の福祉情報を交換し共有しています。こうして出された地域の福祉課題について、ひとりあるいはひとつの団体だけで解決できなかったことが、さまざまな複数団体の連携の力で可能となったケースが多数あります。さらに、新たな事業への企画・アイデアの検討などの取り組みにも繋がっていくケースもあり、成果をあげています。

栄区で現在策定中の「地域福祉計画」の中で大きな役割を期待されています。



* 区民の皆様から寄せられた共同募金の一部を用いて発行しています。

* 自治会・町内会のご協力で全世帯にお配りしています。



訪問したのは昼食後のひととき。和紙を染めて作った祝儀袋につける水引を選んでいるグループ。甘酸っぱい香りはりんごジャムを煮ているところ。隣ではその美味しい香りをかぎながら、とてもきれいでやさしい響きのトーンチャイムで音楽を奏でて楽しんでいる人たち。空き缶の回収に近所を回っているグループなど。活動中の部屋を訪ねると、ストレッチャーやお布団に寝ていても、目で、笑顔で、声をあげてとそれぞれ色々なかたちで歓迎してくれます。

ここは、日本で初めて設立された重度心身障害児・者の通所更生施設「訪問の家 朋」です。重い障害をもった子どもたちが、養護学校を卒業した後の社会参加の場として、日浦美智江さん（現理事長）と障害児のお母さん、そしてたくさんの方々が、様々な困難を乗り越えて作りあげた施設です。現在48人が市内のあちこちから通ってきています。“朋”に通うことで仲間に出会い、障害のある体を精一杯使って、仲間と共に生きていくことの喜びを感じているのでしょう。みなさんすっかり安心して穏やかな表情をしています。



香りただようジャム作り



トーンチャイムを楽しむ



メンバーの方々と日浦さん（左）

各グループの活動風景を見させていただいた後、日浦さんから沢山の心に残るお話を伺いました。

「“あなたにはそれは無理、駄目、無駄だ” と言うのではなく、創造力と行動することで一人一人の可能性を見出しチャレンジしていく場面を作り出すことが大切です。人間大好きという職員たちや、沢山のボランティアに出会いふれ合うことで、心が大きく育ち輝いています。その輝く笑顔が、今度は彼ら

を支えている人たちに大きな力を与えてくれています。皆さんに“このような仕事に携わって偉いですね”といわれますが“羨ましいですね”と言ってほしいですね。（日本が）平和だから弱い人たちもくらししていけるのです。」と、日浦さんはおっしゃっています。

今年は創立20周年を迎えます。創立当初より通っている方はもう30歳を超え、お父さんお母さんも高齢となり、介護をすることが難しくなりました。そういう人たちのために、これまでに3か所のグループホームが出来ましたが、今年はまだ1か所増える予定です。

「特別な人としてではなく、地域の一員として隣近所の人たちと、親しく声を掛け合い、時にはホームに立ち寄ってもらえるような関係が築けたら」と、日浦さんは期待を語ってくださいました。



障害児フリースペースが開設！

障害児余暇支援事業



オセロの熱戦

昨年11月、豊田地域ケアプラザにサポートセンター「径」によって開設された障害児フリースペースの取材に行ってきました。

当日は、開設されてから初めての活動日なので決められたスケジュールはなく、参加した児童たちはスタッフの人たちと一緒に「UNOカード」や「トランプ」をしたり、それぞれ自分の好きな「将棋」や「卓球」をしたりして楽しそうに遊んでいました。

私も誘われて「UNO」カードと一緒にやりましたが、最近の新しいゲームだということで、楽しむことが

できました。また「囲碁」ができるという子がいましたので、私の方から誘いましたが「おじさんは強そうだから」と断られてしまいました。

この様子を見ていたスタッフの方から「これからも時々来て頂けませんか」とボランティアのお誘いがありました。読者の皆様の中にもお手伝い頂ける方がありましたら、ボランティア（フリースペーススタッフ、送迎サービスなど）に参加なさってはいかがでしょうか。

この事業の担当者の金子さんに今後の予定などを伺いました。「現在、月に一度、土曜日に中高生の余暇活動を行っていますが、同じ年代の仲間とのコミュニケーションを求めている子の多いことを痛感しています。特に個別支援級に通っている子は一校の人数も少なく、交流はあるだろうものの、放課後の過ごし方などが気になっていました。『家や学校以外で仲間と集える場があったらいいのでは…』との思いがあったが、幸い豊田地域ケアプラザから場所を提供して頂いたので、フリースペースとして開設することとなりました。本日は初回なので活動の様子を見て、今後うまく軌道に乗ったときには更に展開できたらと考えています」とのことでした。



スタッフとの「UNO」ゲーム

このフリースペースを利用したいと思われる方、ボランティアに参加したいと思われる方は、下記へ電話でご連絡ください。

開催日時：第2・4月曜日 15時～17時頃
場所：豊田地域ケアプラザ 2階 多目的ホール
対象：障害のある主に中高生
(小学校高学年はご相談にあずかります)
参加費用：おやつ代 200円
問合せ先：社会福祉法人 訪問の家
サポートセンター「径」相談支援室
☎ 045(890)6601



子育てサロン

子ども広場「モーリーズ」の紹介

3年前、若いお母さん達の役に立ちたいと思っている地域の方々と、安心して子育てできる場の提供を考えていた中野地域ケアプラザとの思いがひとつになって「子ども広場モーリーズ」が誕生しました。

午前10時、始まりと同時にやってきた親子は、スタッフと一緒に会場づくりのお手伝いから始まります。お気に入りのおもちゃのほとんどが広場を利用している皆さんからの寄付です。広い会場は、ボールを追いかける子、すべり台に夢中の子、乗り物やおままごとに、そして一角には本を読んだりお絵かきをしている親子もいます。気が付くと布団の上では遊び疲れたかわいい寝顔が見えます。お昼近くになると、あちこちに小さなテーブルを囲んでお昼を食べる姿が見えます。

月に1度の「にんじんクラブ（お話し会（絵本・紙芝居・パネルシアター等）や読み聞かせのボランティアグループ）」の本の「読み聞かせ」はみんなが楽しみにしている時間です。また、年に数回楽しい行事（芋掘り・お月見の会・クリスマス・ひな祭りなど）を催しています。



読み聞かせの風景



遊びに夢中



食後のだんらん

スタッフは子どもが危険のないように見守っています。親子が広場に来て子育ての疲れを癒してほしい。みんな友達になってほしい。他の子を見て子育ての不安を取り除き、自信を持ってほしいと願って応援しています。お母さんたちも「楽しみにしています」と明るい笑顔で元気に話してくれました。

モーリーズが、中野地域ケアプラザを利用する多くの人に見守られていることは、地域の皆で子育てをしていると強く感じました。

開催日時：第2・4月曜日（祭日のとき変更あり）10時～16時

会場：中野地域ケアプラザ 2階 多目的ホール

対象：0歳～小学生の親と子（無料）

問合せ先：中野地域ケアプラザ ☎045(896)0711



事務局
生きがいづくり ひまわりの会（小守 孝）
愛コップ栄（宗像 禮子）
上郷東（井上 三智） いでたち（井上 進）
本郷第三（長瀬 洋子） 上郷西（古宇田伸子）
小昔ヶ谷（田中富美子） 本郷中央（星 明男）
豊 田（野口 淳） 笠 間（横山 明弘）

【栄区社会福祉協議会広報編集委員】

平成16年度は、子育て支援活動や、区内の障害児者の施設などの紹介を中心に、活発な意見交換をしながら進めてまいりました。今年には地震や台風、児童虐待など悲惨なニュースに心を痛めた年でした。こういう時代なればこそ、地域の支えあい、助け合いの重要性を痛感いたします。微力ながら、編集委員一同今後とも皆さんのお役に立てるニュース作りを心がけたいと思っています。

【編集後記】

